

2006年10～12月期GDP速報（QE）予測
～高成長だが、反動の面も大きい～

第一生命保険相互会社（社長 斎藤 勝利）のシンクタンク、株式会社第一生命経済研究所（社長 石嶺 幸男）では、2006年10～12月期GDP速報（QE）予測を取りまとめましたので、ご報告いたします。

2006年10～12月期GDP速報予測

実質GDP成長率	前期比+0.9%（同年率+3.5%）
名目GDP成長率	前期比+1.0%（同年率+4.2%）
GDPデフレーター	前年比▲0.5%
国内需要デフレーター	前年比▲0.1%

【お問い合わせ先】

第一生命経済研究所 経済調査部
主任エコノミスト 永濱 利廣
お問い合わせは
経済調査部 日本経済短期予測チーム
新家 義貴 まで
TEL 03-5221-4528
E-Mail shinke@dlri.dai-ichi-life.co.jp
(詳細は次頁以降をご覧ください)

○ 実質成長率は前期比+0.9%(年率+3.5%)と潜在成長率を大きく上回る高成長に

- ・ 2006年10～12月期の実質GDP成長率(2月15日公表予定)は前期比+0.9%(同年率+3.5%)と、潜在成長率を大きく上回る高成長が予想される。
- ・ 個人消費が前期比+0.7%と高い伸びになるとみられることが、高成長の最大の要因である。7～9月には個人消費の減少が低成長をもたらしたが、それとは逆の動きになる。個人消費と並んで民需のもう一本の柱である設備投資についても、高水準のキャッシュフローや企業の期待成長率の回復等を背景に堅調な推移が続く見込みである(前期比+1.0%)。また、これまで大幅な減少が続いてきた公共投資でも反動増が見込まれている(前期比+3.1%)ほか、住宅投資も同+1.9%と三四半期ぶりに増加に転じる見込みだ。このように、10～12月期は内需の好調さが目立った。また、海外経済が底堅く推移していることを背景に輸出が引き続き増加した一方で輸入の伸びが小幅にとどまった結果、外需寄与度は前期比+0.1%ポイントとなった模様だ。在庫投資については、製品在庫が増加する一方で流通在庫が減少したとみられ、寄与度はゼロを見込む。
- ・ このように10～12月期は高成長となった模様である。このうち、設備投資や輸出の増加については素直に評価して良いと考えられるが、個人消費については7～9月期の減少の反動増の側面も大きいいため、割り引いて考える必要がある。個人消費は前期比+0.7%と高い伸びが予想されるが、それでも7～9月期の落ち込み(同▲0.9%)を完全には取り戻すことができない。夏場の落ち込みから持ち直していることは確かなのだが、回復ペースは緩やかなものにとどまっていると判断できる。実際、月次の個人消費関連指標からは、消費の改善がもたついていることが示されている。
- ・ 10～12月期のGDPデフレーターは前年比▲0.5%(7～9月期同▲0.7%)と、前期から下落率が縮小すると予測する。もっともこれは、原油輸入価格の下落によるものである。輸出入の要因を除いた国内需要デフレーターは前年比▲0.1%(7～9月期同+0.2%)と、再びマイナスに転じる見込みである。
- ・ 以上の10～12月期GDP統計予測については、2月2日に公表される12月家計消費状況調査等の結果を受けて修正する可能性がある。

図表 2006年10-12月期GDP予測

	実質		名目
	前期比	前期比年率	前期比
国内総生産(GDP)	0.9	3.5	1.0
内需寄与度	0.8	3.1	0.7
外需寄与度	0.1	0.4	0.4
民間最終消費支出	0.7	2.8	0.4
民間住宅	1.9	7.8	2.1
民間企業設備	1.0	4.1	1.2
民間在庫品増加(寄与度)	0.0	0.0	0.0
政府最終消費支出	0.2	0.8	0.2
公的固定資本形成	3.1	13.0	3.1
財貨・サービスの輸出	0.9	3.6	2.0
財貨・サービスの輸入	0.3	1.2	▲ 0.2
GDPデフレーター(前年比)	▲ 0.5		
国内需要デフレーター(前年比)	▲ 0.1		

以上

<日本経済短期チーム>

新家 義貴 (shinke@dlri.dai-ichi-life.co.jp)

長谷山則昭 (haseyama@dlri.dai-ichi-life.co.jp)

結城 良彦 (yuki@dlri.dai-ichi-life.co.jp)